



口蹄疫等の防疫対策を徹底しましょう！

韓国、中国など東アジア地域では、口蹄疫の発生が継続しており、また、ロシアや欧州ではアフリカ豚コレラが発生しています。これからゴールデンウィークを迎えるに当たり、海外への渡航者も増えることから、国内へのウイルスの侵入リスクがますます高くなります。

◎畜産関係者は本病発生地域への渡航は可能な限り自粛して下さい。

なお、仮に渡航する際には以下の点に留意してください。

《海外渡航に当たっての留意事項》

- ①農場、家畜市場、と畜場等の家畜関連施設には立ち入らない
- ②動物との不用意な接触を避ける
- ③肉製品等は日本に持ち帰らない
- ④帰国の際には、到着した空海港の動物検疫所カウンターに立ち寄り、家畜防疫官の指導を受ける

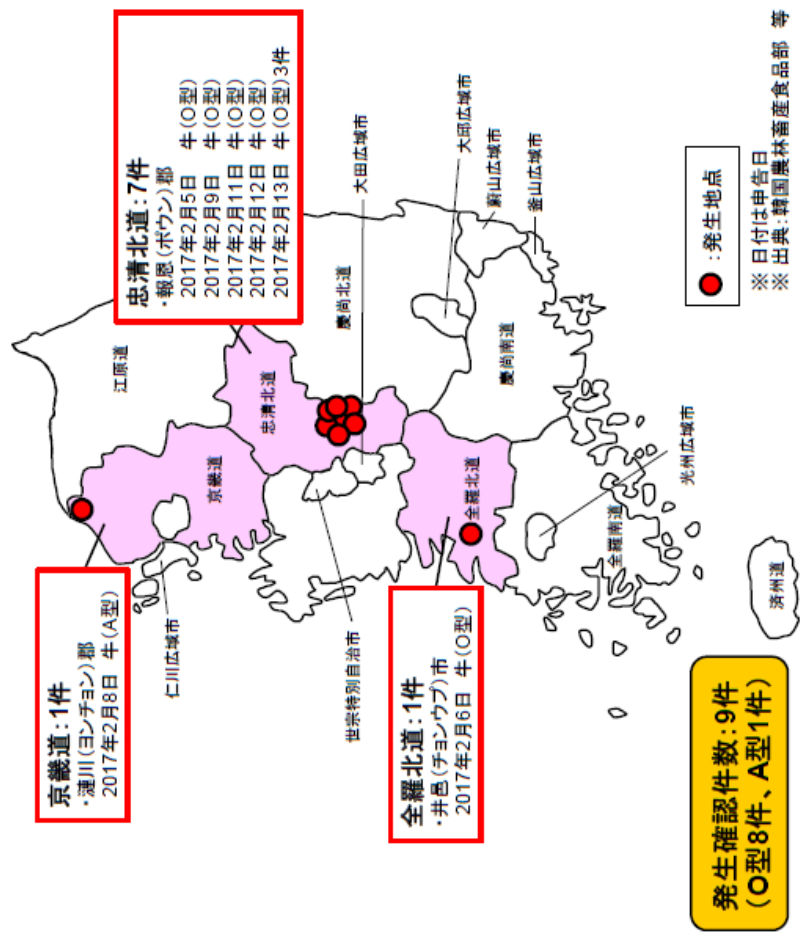
《帰国後の留意事項》

- ①帰国後一週間、衛生管理区域には立ち入らない
- ②海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域には持ち込まない

◎また、農場への病原体侵入を防ぐため、**不要な人の立入りや物の持込みをさせない**よう注意してください

2017年3月28日現在

韓国における口蹄疫の発生状況 (2017年2月以降)



○韓国では、2010年12月から全国的に口蹄疫のワクチン接種を実施しており、繰り返し口蹄疫が流行

○2017年は、2種類(O型とA型)の口蹄疫ウイルスによる発生が確認

○近年における口蹄疫の流行(O型)
・2016年1月 ~ 3月: 21件(豚21件)
・2014年12月 ~ 翌年4月: 185件(牛5件、豚180件)
・2014年7月 ~ 8月: 3件(豚3件)

欧州・ロシアにおけるアフリカ豚コレラの発生拡大状況(2007年~)

